

葬儀について



焼香のしかた

お焼香は仏前を荘厳するとともに、私たちの煩惱に満ちた心身を清らかにする意味も含まれているのです。



お焼香は香炉に炭を入れ抹香を焚くことで、次の順にて行います。

- ① 一礼
- ② 焼香（おしいただかず、右手で二回）
- ③ 合掌・礼拝
- ④ 一礼



「いのち」は送り方で姿を変える

葬儀は、単なる亡き人とのお別れの儀式ではありません。「いのち」の学びが少なくなつた現代だからこそ、葬儀が一体誰のものであるのか、改めて考えてみる必要があります。

浄土真宗では、葬儀について、限りある「いのち」を深く見つめる尊いご縁ととらえ、大切にします。悲しみの涙には、心を耕し、他者への理解を深めるはたらきがあるからです。

葬儀の際に僧侶が拝読します『帰三宝偈』は「**道俗時衆等**」どうぞくじしゅうどうとうという一句から始まります。「すでに仏縁のある人も、これまで仏縁のなかつた人も、今ここに集う皆さんよ」というこの言葉を亡き人からの呼びかけとして受け止めていくことが参列者の心得であり、また本来の葬儀のあり方なのです。

「いのち」は送り方で姿を変えます。亡き人と残された私たちとの間に、新しい対話が始まり、「死」に学ぶ生き方へと変えられるのです。

